

ジェンダー平等をめざして



毎月11日は「人権を確かめあう日」です

昨今、社会において女性の活躍が叫ばれていますが、日本の男女格差は一向に改善していません。

世界経済フォーラムが発表した2022年の「ジェンダー・ギャップ指数」においては、日本は146か国中116位(前回は156か国中120位)でした。

この指数は、「経済」「教育」「健康」「政治」の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示していますが、日本の総合スコアは0.650で、先進国の中で最低レベル。アジア諸国の中でも韓国や中国、ASEAN諸国より低い結果となりました。特に政治分野と経済分野における値はたいへん低くなっています。

政治、経済、社会などのあらゆる分野において女性と男性が共に意思決定過程に参画し、また、多様性を受け入れる社会を作り、すべての人が平等であると感じる社会に変えていくことが必要です。



3月8日は「国際女性デー」です。

国際女性デーとは、1904年3月8日にニューヨークで、参政権のなかった女性が労働条件の改善を求めて起こしたデモを受けて、1975年に国連によって、女性の地位向上と社会進出の促進を目指すために、制定された日です。

この日は、国や民族、言語、文化、経済、政治の壁に関係なく、女性の生き方を考える日として、全世界でさまざまな活動が行われています。

ジェンダー・ギャップ指数で下位に位置している日本ですが、私たちも、力ある、豊かで暮らしやすい社会づくりを目指して、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントについて考えてみましょう。

(ジェンダー：社会的性差 エンパワーメント：力を発揮し行動していくこと)



2023. 3

宇陀市人権啓発活動推進本部

※このピラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp

